

岡山県奈義町が独自に取り組んでいる「子育て支援政策」について 総務文教委員会の政務調査報告

(令和5年10月31日)

奈義町は昭和30年に3村が合併し「奈義町」が誕生。その後平成14年2月に合併の意思を問う住民投票を行い「単独町政」を決定。
得票率約75%（約70%が合併しないを選択）

*面積 ; 69, 52km² (東西約9km/南北10km)

*人口 ; 5, 751人 (2023年3月1日現在) : 前年度4月1日時点5, 725人

*世帯数 : 2, 533世帯 (2023年3月1日現在)

*特色 : 自衛隊 ・ 日本原駐屯地 ・ 日本原演習場14, 66km²
(奈義町分 : 11, 94) = 行政区の約2割
km²

奈義町存続のため「人口減少」は最大の課題として

=人口減少・少子高齢化=

*対策として : 定住促進のための

- ・子育て支援施策（産み育てる環境をつくる）
- ・住宅施策（住む環境）
- ・魅力ある教育
- ・就労の場の確保施策（働く環境）

*目標 : 現在の人口を維持すること

(子育て支援宣言の発表 平成24年4月1日)

奈義町が子育て応援宣言を発表。町民へ行政が約束をする
宣言することで町民へ『安心感』と『心強さ』を

*高い合計特殊出生率の鍵は「安心感」

*住むところがあって安心（若者定住、定住促進住宅、安価な分譲地など）

*働くことができ安心（工業団地や企業支援、しごとコンビニ、シェアオフィスなど）

*子育ての負担が軽くなって安心（出生から大学卒業まで切れ目のない経済的支援）

*子育ての悩みや喜びが共有できて安心（チャイルドホームが核となり多様な地域の人が
関わる仕組み）

*町のみんなが子育てを応援してくれて安心（一時預かり、自主保育、登下校の見守り、学校
支援ボランティア）

若い人たちが安心して産み育てることができる、そんな町づくりを奈義町が
率先して「子育て支援宣言」を発表し町民へ行政が伝える。素晴らしい取り組み
でした。

令和5年11月27日

岡山県西粟倉村の、百年の^{もり}森林に囲まれた地方創生の取り組みについて
総務文教委員会の政務調査報告 (令和5年11月1日)

西粟倉村

- *面積：57.97km² 内92.6%が森林(53.68km²)
そのうち83.6%が人工林
- *標高：263m～1280m
- *気候：年間平均気温11度、年間平均降水量約2000mm
- *予算：令和5年度一般会計予算 約41.3億円

*人口の推移

- ・平成31年3月 人口1,454人/607世帯 高齢化率36.2%
- ・令和2年3月 人口1,444人/616世帯 高齢化率36.8%
- ・令和3年3月 人口1,416人/607世帯 高齢化率37.0%
- ・令和4年3月 人口1,384人/597世帯 高齢化率37.4%
- ・令和5年3月 人口1,355人/594世帯 高齢化率37.9%

*18年間の変遷

- ・2004年 地域マネージャー事業(～2007)
合併協議会離脱＝自主独立の決意
地域活性化へ＝総務省：アミタ(株)
住民アンケート結果により決断
- ・2007年 雇用対策協議会 設立
地域外から人材を獲得する取組み
- ・2008年 百年の森林構想着想
フラッグシップ戦略(一点突破)
- ・2009年 百年の森林事業開始
(株)西粟倉・森の学校設立
百年の森林事業の川下事業を推進
- ・2013年 環境モデル都市選定
2014年 バイオマス産業都市選定
フラッグシップに共感する
若者の移住
- ・2015年 ローカルベンチャースクール開始
ローカルベンチャー推進協議会設立
(広域連携)＝地方創生事業着手
52事業
- ・2016年 (株)西粟倉・森の学校 AO(株)分社
地域のプレーヤーを呼び込み
移住
- ・2019年 SDGs 未来都市認定(モデル)
「持続可能な地域」実現の取組み
- ・2021年 TAkIBIプログラム開始
ローカルベンチャーの第2フェーズ
- ・2022年 脱炭素先行地域・デジタル
田園都市選定

持続可能な村「上質な田舎の」実現のために、前村長から引継ぎながら全村民を含めた新たな企業起こしなど感動です。森林に囲まれた村が輝いて見えました。